

(様式3)

令和4年度 しまねの公民館次世代参画支援事業 実績報告書

市町村名	安来市	公民館等の名称	荒島交流センター
事業の目的	地域住民の防災意識を高めると共に、防災への取り組みを通して住民が地域に目を向け、住民同士がつながるきっかけをつくること		
事業の内容	○ターゲットとする世代 30代から40代（就学前～中学生くらいの保護者世代）		
	○地域の状況やターゲットとした理由 近年、気候変動に伴う自然災害が多発、激甚化している。荒島地区でも昨年、道路の冠水や土砂崩れによる被害が発生した。しかしながら今回対象とした世代は仕事や育児に追われ多忙なこともあり、防災への関心、意識を十分に高めることができていないように感じている。今回の取り組みをきっかけとして防災意識を高めると共に、活動を通じて地域への関心を高めたり、住民同士がかかわる場を設けたりしたいと考え、上記の世代を対象とした。		
	○事業の内容（日時、場所、参加者数、具体的な活動）を具体的にご記載ください。 安来市荒島町では、昨年の7月に線状降水帯による大雨で、道路が冠水や床下浸水、土砂崩れなど多くの被害が発生した。地域住民にとって、避難場所や避難経路の把握、備蓄セットの常備、隣近所の連携など様々な課題のある中、幅広い年代に向け、特にこれから地域を引っ張って行く若い世代の防災意識を高めると共に、活動を通じて地域を盛り上げ住民同士がかかわる場を設けたいと考え、防災フェスティバルのイベントを実施した。当初7月30日に開催の予定だったが、新型コロナウイルス感染症が拡大傾向にあったため延期とし、11月6日の荒島交流センター文化祭ふるさとまつりと同時開催とした。文化祭の出展ブースの一つとして防災コーナーを設置し様々な企画を実施したが、その中でも地元小学生にボランティアスタッフとして手伝ってもらった「防災あてくじコーナー」や「消防自動車乗車体験」が大好評だった。また、7月の災害の様子の写真や4月にリニューアルした防災マップを見てもらい、避難場所や避難経路や備蓄セットの説明をするコーナーも設けた。来場者は約200名あり、帰る際にはアンケートに協力してもらった。 後日、このイベントの様子を防災新聞に掲載し、地域住民へ発行した。		
成果と課題 今後の見通し	○期待する成果・効果 ・アンケート結果から、改めて災害の恐ろしさを感じた方が多かったことや自主防災組織が無い町内が多いこと、自主防災組織の意味が分からない方が多くいることがわかった。自宅に備蓄セットを備えている方もいれば、全く備えていない方もおり、備蓄に関する展示を見て何を備えれば良いか学ぶことができたという意見もあった。避難場所や避難経路については、知っている方が多く、住民同士の繋がりもあるようだが、若い世代に関しては隣近所とはあまり関わりがないという意見が多かった。これらを踏まえ、今後もイベントを通じ若い世代から高齢者の方まで幅広い年齢層の方を対象に防災イベントを実施し、地域住民の防災意識を徐々に高めるとともに、荒島地区を活性化できるよう取り組みたい。		

○計画書に記載された「期待する成果・効果」をふり返って見られた成果や課題、次年度以降の見通しなどをご記載ください。

子育て世代が親子で楽しみながら防災について学ぶことにより、今後の交流センターの事業や地域の活動への参加・参画を促したい。

防災イベントを親子、中学生、高齢者など様々な交流の場の一つとすると共に、これからのつながりづくりにしたい。

防災フェスティバルの活動報告

